

講義(2)

小池 祐二

メセナとフィランソロピー

「メセナ」は「文芸の擁護」といった意味合いを持つフランス語。日本では企業の社会的責任の一環として、企業が文化や芸術の振興を支援することをさす(企業メセナ)場合が多い。歴史をたどると、実は、案外、奥が深い。

「フィランソロピー」は、ギリシア語の「フィリア(愛)」と「アンソロポス(人類)」を語源に持ち、もともとは人間愛にもとづく利他的・奉仕的活動を意味する。現在の企業経営との関わりでは、企業が行う現金などの直接的な寄付など。

ともに企業の社会貢献として、現在に至る一定の歴史を持っている。

(1) メセナ

【メセナとは】

- ‘mécénat’ は、フランス語で「文芸の擁護」といった意味合いのことば。‘mécène’ というと「文芸の擁護者」という意味になる。
- ガイウス・キルニウス・マエケナス(紀元前70年～紀元前8年)、(羅)Gaius Cilnius Maecenas、(仏)Mæcenasの名にちなむ。
- 英語では ‘sponsorship’ だが、日本では、この語は冠協賛や番組提供の意味合いで定着していたため、「メセナ」が使われるようになった。

【古代ギリシャ】

- ・ 古代ギリシャでは、ピタゴラスやプラトン、アリストテレスなどによって音楽理論が論じられた。
- ・ 魂や宇宙の「調和」を追求するものとして、哲学、数学、音楽理論が論じられた。
- ・ 「調和」は古代ギリシャ語で「ハルモニア」(現在の英語の「ハーモニー」)。

*参考になる文献：西原・安生(2020)『数字と科学から読む音楽』YAMAHA

【ルネサンス】

- ・ ルネサンスは14～16世紀にヨーロッパ各地に広がった。
- ・ ギリシャ、ローマの古典文化の研究が盛んにおこなわれた。
 - ギリシャやローマの教養が重視された。
 - 為政者は幅広い教養を持つ人文主義者であることが重要とされた。
- ・ 特に北イタリアでは芸術保護が盛んだった。
 - メディチ家など有力貴族による芸術の保護。
 - 同業組合による芸術の保護。
 - 芸術の発展にはパトロネージが重要な役割を持つ。
- ・ ギリシャの音楽劇の復興としてオペラが誕生。

【芸術のパトロンたち】

- 宮廷貴族と新貴族

国王をはじめ宮廷貴族は威信を保つため教養の

レベルは高く、みずからも音楽など芸術をたしなんだ。

ブルジョワジー出身などの新貴族は宮廷貴族の生活に倣った。

貴族にとって浪費は「エレガンス」。

ex.ルイ14世はヴェルサイユ宮殿を開放して盛大な祭典を開催。

【ノブレス・オブリージュ(Noblesse oblige)】

- 高貴なるものの責務

貴族には特権と引き換えに無私の責務が求められ

人々に徳を示す存在である必要があった。

軍務 統治 文化・芸術 礼儀 など

【従来のパトロンを失うと】

- ・市民社会到来で宮廷の支援がなくった劇場は自助努力を迫られた。

ex. *劇場にカジノを併設。

*1830年代、パリオペラ座は年間予約者に
樂屋に自由に入りする権利を付与。

- ・市民(中産階級)が音楽振興の担い手に。
市民の教養、娯楽としての芸術。
音楽教育の普及。
- ・商業ベースに乗るものだけが生き残ることに。

【現在のメセナと芸術】

- ・ 実際のところ、大規模な公演・興行はチケット収入だけでは、経費を賄いきれていない。
- ・ 長い歴史を持つヨーロッパでも、結局、現在は、多くが国家メセナによって音楽芸術が支えられている。
⇒民営化の試みも
- ・ 経済面から考えると、音楽興行に対する国家メセナや企業メセナにも、機会費用やサンクコストの問題が発生する。

【それでは、近現代の日本では？】

映画、歌舞伎等と松竹

映画、宝塚歌劇等と阪急阪神東宝グループ

テキスト:p141～151

(2) フィランソロピー

【近代以前のフィランソロピー】

- 為政者や資産家の寄付や施し

 プラトンのアカデメイアは個人資産で運営された

 欧洲では慈善事業は国王や貴族の思し召しとして行われた

 江戸時代から続く大阪の学問書「懐徳堂」は寄付金で運営

 江戸時代の大坂の200の橋のうち公設は12だけ

【近代的なフィランソロピー】

- ジョン・D・ロックフェラーが近代的フィランソロピーの始祖

 「小売りのチャリティーから卸売りのフィランソロピーへ」

 個々の病人に薬を配布するのではなく

 感染防止や公衆衛生向上に多額の寄付

野口英世はロックフェラー財団で研究

*ジョン・デイヴィソン・ロックフェラー・シニア(John Davison Rockefeller, Sr、1839～1937)。1870年にスタンダード・オイル社を創業。石油市場を独占してアメリカ初のトラストを結成した。1897年に事実上引退し、その後は現代的フィランソロピーの構造を定義し、慈善活動に力を入れた。

- ・ アンドリュー・カーネギーのフィランソロピー
世界2500か所以上の図書館に
カーネギー基金を設置し図書館の充実に貢献
カーネギーメロン大学など教育機関の設立
カーネギーホール設立
- ・ 「慈善」には懐疑的だったフォード
いわゆるバラマキは人を堕落させる
労働者の待遇を良くし、
イノベーションによって商品価格を下げる
エタノール燃料や植物由来プラスティック、
木材の集成材開発や使用にも意欲的だった
金融には批判的だった

* アンドリュー・カーネギー（1835～1919）はカーネギー鉄鋼会社を創業して成功を収め「鋼鉄王」とよばれた。ロックフェラーに次ぐ史上2番目の富豪とされることもある。事業で成功を収めた後、教育や文化の分野へ多くの寄付を行った。1889年の『富の福音』はフィランソロピーを志す人々への啓蒙書となっている。

* ヘンリー・フォード（1863～1947）フォードモーターの創立者。ライン生産方式による大量生産を実現。¹¹

【現在のコーポレート・フィナンソロピー】

- ・企業が行う現金などの直接的な寄付行為。
- ・補助金、奨学金、製品の寄付、サービスの寄付、専門技術の提供、施設や流通チャネルの提供、遊休設備の提供など。

【資本主義とプロテスタンティズム】

- ・ヴェーバーは資本主義の背景にプロテスタンティズムの禁欲主義と労働意欲があるとみる。
- ・「営利活動が最も自由に解放されているアメリカにおいても、営利活動は宗教的な意味も倫理的な意味も奪われて、今では純粋な競争の情熱と結びつく傾向がある。時にはスポーツの性格を帯びていることも稀ではない。」
- ・「精神のない専門家、魂のない享楽的な人間。この無に等しい人は、自分が人間性のかつてない段階に到達したのだろうねぼれるだろう。」

*マックス・ヴェーバー（ウェーバー）1864～1920、ドイツの社会学者、政治学者、経済史・経済学者

*ヴェーバー『プロテstanティズムの倫理と資本主義の精神』

(3) ガブリエル・シャネル

【Gabrielle "Coco" Chanel(1883~1971)】

- ・シャネルは女性の社会進出をファッションの面から後押しした。また、芸術家との交流を通じて公演を援助したり、慈善事業などに多額の寄付をした。



<https://www.ina.fr/video/CAF97040405>

【シャネルとは？】

- ・ 「シャネル帝国」と呼ばれるブランドを立ち上げたデザイナー・経営者
- ・ しかし…
　その人生は謎に満ちている
　本人が言っていることは嘘だらけ
　シャネルの箴言(名言)として残っている言葉もあるが、親交の深かった詩人ルヴェルディがゴーストライターだったとの考え方も根強い。

【シャネルの人生】

◆1883.8.9

フランス南部ソミュールで誕生

◆1895

母親が死去 オバジーヌの修道院の孤児院に入る(異説あり)

シャネルはカトリックのシトー会修道院の孤児院で育った。

シトー会は「5」を聖なる数字とする

◆1903~06

ムーランの仕立屋で働きながら

カフェ・コンセールで端役の歌手となる

◆1906~

エチエンヌ・バルザンの屋敷で暮らし始める

◆1908

アーサー・“ボーイ”・カペルと出会う

◆1909

パリで帽子づくりを始める

◆1910

帽子店『シャネルモード』を開く = CHANEL創業

◆1913

カペルの援助でドーヴィルに帽子と服の店を開く

◆1914

ジャージを使用した服を発表

◆1915

カペルの援助でビアリッツにクチュールメゾンを開く

◆1916

パリにCHANEL本店を開く

◆1917

ミシア・セールと知り合い多くの芸術家と交流を持つ

⇒シャネルのメセナの始まり

◆1919

カペル死去 遺産を贈与される

◆1920

ディミトリ大公と交際を深める

⇒この頃からCHANELのロシアン・ルックの始まり

◆1921

「N°5」発表

モスクワ生まれのフランス人調香師、エルネスト・ボーが製作

◆1925～

ウェストミンスター公爵と交際を深める

⇒デザインにイギリス風のテイストを加えていく

◆1926

『ヴォーグ』誌がリトル・ブラック・ドレスを絶賛

アメリカで「シャネル製のフォード車」として評判となる

⇒量産できるというコンセプトが同じとされた

◆1931

ハリウッドで映画の衣装を担当

◆1932

ダイヤモンド宝飾展を開催

⇒シャネルのフィランソロピーのひとつ

◆1939

香水とアクセサリー以外のメゾンを閉鎖

◆1943～44

ドイツのエージェントとして英独単独講和の工作に関与？

「モデルフート(帽子)作戦」

シャネルのコードネームは「ウエストミンスター」

パリ解放後に対独協力に問われるが釈放される

◆1945～

スイスでの事実上の亡命生活に入る

◆1953

パリのメゾンを再開

◆1954

2月5日 新しいコレクションを発表

◆1955

キルティングバッグ「2・55」を発表

◆1956

現在のシャネル・スーツの形ができる

◆1965

COGA財団設立

◆1971

1月10日 ホテル・リッツで死去 享年87歳

遺志によりスイスのローザンヌに埋葬される

【シャネルのメセナ】

- ・セルゲイ・ディアギレフ率いるバレエ・リュスの支援
　　ストラヴィンスキー『春の祭典』再演の資金援助
　　ダリウス・ミヨー『青列車』の衣装担当
　　　台本はジャン・コクトー
　　ウラジミル・デュケルスキー(ヴァーノン・デューク)
　　　『ゼフィールとフロール』に衣装提供
　　ストラヴィンスキー『ミューズを導くアポロ』に衣装提供

など

- ・ ジャン・コクトーの作品への支援
コクトーの舞台への衣装提供
コクトーとバレエ・リュスのコラボへの支援
など
- ・ ストラヴィンスキーへの個人的支援
ストラヴィンスキー一家へ住居の提供
ストラヴィンスキーへの個人的な経済的支援
- ・ COGA財団による若い芸術家への支援？
シャネルの遺産相続権者への年金の支払い
匿名で若い芸術家の支援を行っている？

【シャネルのフィランソロピー】

- ・ダイヤモンド宝飾展開催(1932)

- 世界恐慌のさ中にダイヤモンドの国際ギルドが依頼

- シャネルの私邸で開催

- チケット売り上げの総額を慈善事業に寄付

- ・社会福祉施設への寄付

- 友人のリアーヌ・ド・プージィが支援していた

- 精神障害を持つ女性のための施設へ多額の寄付

- ・教会への寄付

- オバジーヌの修道院への寄付

【女性の服飾の変化への貢献】

- ・社会で活躍する女性の服装へ
過剰な装飾を排除し実用的な服飾の追求

しかし…

シャネルだけがこのような服飾を目指した訳ではない。

新しいタイプの香水製造もシャネルだけではない。

なぜCHANELのメゾンは生き残っているのか？

シャネル独自のマーケティングやブランディングがあったのか？

【19世紀と20世紀の橋渡し役としてのシャネル】

- ・社会で活躍する女性のための服装へ
- ・過剰な装飾を排除し実用的な服飾を追求

しかし…

シャネルの服はオートクチュール中心

⇒顧客はあくまでも「上流階級」

著作権にこだわらずコピーを容認したが

⇒プレタポルテの時代の到来を予見していた

⇒シャネル自身はプレタポルテ進出を認めなかった

- ・歴史的意味合いとして、シャネルはメセナやフィランソロピーの貴族などから企業・企業家への移行をになった。
- ・さて、ガブリエル・シャネルの生き方とは？